

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017	事業の開始年月日	2011年4月12日	
		指定年月日	2011年4月10日	
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス			
事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷 ユニット名：A棟			
所在地	(〒 981-2102) 宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山字直洲131-1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年2月16日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「異体同心」「地域密着」「利用者本位」を掲げ、ご利用者様、ご家族様のご希望に出来るだけ対応できるよう日々実践しております。正しいサービス提供となるよう、外部研修や外部講師を招いての研修も取り入れ情報共有を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

＜基本理念＞ 「利用者本位」「異体同心」「地域密着」

＜ユニット目標＞

◎A棟：「『こころ』と『からだ』の健康で笑顔と真心の介護」

◎B棟：「敬う心で、明るく笑顔 優しい介護」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「株式会社岩沼インテリアサービス」は、リフォームなどを主な事業としており、地域貢献として2011年にグループホームを丸森町に開所した。ホームは角田市との境に近く、国道113号線から少し東に入った住宅と田園が混在する場所に建つ静かな環境である。スーパーやコンビニなども近い。建物は広い敷地に独立した平屋建てで、2ユニットが向かい合わせで建てられており、ユニット間の広場は合同で行うイベント会場としても使われる。各居室にはテラスが設けられ、より独立性が感じられる。リビングには大きな木の梁があり、畳の小上がりがあるなど、和風の佇まいである。

【事業所の優れている点・工夫点】

①理念に添ってその人らしく過ごせるよう支援に努めている点

地域の体操教室への参加や買い物、新聞購読など、利用者がしたいことを継続できるように支援したり、季節の飾り物の作成や歌など、利用者が楽しんで参加できるように工夫するなど、職員は理念を念頭に利用者に寄り添いその人らしく過ごせるように努めている。ドライブや合同でのイベントなどで、外へ出る機会も設けるようにしている。

②地域との関係づくりに積極的である点

地域の「班」（町内会）に加入し、地域の避難訓練にも参加したり、友人が面会に来るなど、地域とは馴染みの関係ができています。コロナ禍で地域住民との交流の機会が減ってしまいましたが、職員はまた交流を再開し、利用者の楽しみも増やしたいと考えています。

③働きやすい職場づくりに努めている点

毎月のミーティング時の他に、社長が直接職員と話し合う機会を設けるなど、法人としても職員の意見を取り入れるように努めている。機械浴や大型車を導入し、利用者の楽しみや職員の働きやすさに繋がっている。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	介護部門 認知症高齢者グループホームひまわりの郷
ユニット名	A棟

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：認知症高齢者グループホームひまわりの郷）「ユニット名：A棟」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念と、A棟「心と体の健康で笑顔と真心の介護」B棟「敬う心で明るい笑顔、優しい介護」という各ユニットごとの目標を決めて実施しています。毎日の朝礼時に全員で読み上げています。	開所時に職員が話し合った理念をホールと事務室に掲示し、朝礼時に唱和している。理念を念頭に、ユニットごとに職員間で話し合い目標を作成し、毎年、振り返りを行っている。職員は笑顔で利用者に寄り添い、利用者の意向を実現できるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「班」に入れていただいております。回覧板を通して、地域の情報を受けています。また、奉仕作業や避難訓練にも参加し交流に努めています。	地域の「班」に加入し、回覧板や広報紙で情報を得ている。地域の清掃活動に職員が参加している。地域の避難訓練には利用者も参加し、避難所の段差がある場所では近隣住民から手助けを借りるなど、連携が図られた。散歩の際には近隣の人と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学时相談を受けた際は、利用の提案だけではなく、その方に合った必要なサービスを受けられるよう提案しております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況報告だけではなく、空室状況や外部活動状況等も報告し共有している。頂いた意見は当月のミーティングにて報告し話し合いを行っている。	運営推進会議には区長・民生委員・地域包括職員・家族代表・職員が参加し、年6回開催している。ホームの運営状況や利用者の様子、研修・行事などの報告をしている。参加者からは病院受診時の対応などについて意見があった。『地域の介護施設全般について知りたい』との意見があり、町役場に繋げた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、運営での困り事は都度相談するよう対応しております。	家族からの苦情対応や運営で困ったときなどに相談したり、事故報告なども行っている。生活保護の利用者については仙南保健福祉事務所と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を作成しており、職員全員に配布し、会議の時に読ませをし周知徹底を図っている。また3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束適正化委員会をケアマネジャーを中心に3ヶ月ごとに開催し、「身体拘束その他の行動制限防止に係る指針」についても読み合わせている。研修は担当の職員が講師になり年2回開催している。外出したい利用者には職員と一緒に同行したり、家族に伝え一緒に買い物やドライブに行くなど気分転換をしている。防犯上、玄関は夜間のみ施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待防止委員会開催と年2回の虐待防止に関する研修を実施し、日々の業務に活かしています。また、実践で不安がある際は都度スタッフ同志声を掛け合い確認を行っています。	年2回、虐待防止委員会を開催し、職員は「虐待の芽チェックリスト」で自らのケアを振り返っている。また「適切ケアチェックリスト」を職員に配布し、職員の気づきに繋がっている。管理者は日頃から職員の話を聞いたり相談に乗るなど、ストレスの軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修を資料作成からスタッフに行ってい頂き、理解を深めています。実践では		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、疑問点にも丁寧にお答えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時折面会に来られた時や、何か用事があり電話連絡した時など意見や要望があれば聞き運営に反映されるように努めている。	感染症予防に取り組みながら、面会の制限をなくし、居室での面会を可能にした。毎月、利用者の写真入りの「ひまわりの郷通信」を家族に送付し、日常の様子が分かるとの声がある。面会時や受診時に家族から聞いたことなどは伝達漏れがないよう「申し送りノート」やタブレットに記入し、朝夕の引継ぎで確認し情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で話をする機会を設け疑問点は、スタッフに投げかけるよう対応しております。ミーティング時には全体に意見を聞き必要時は修正しております。	ユニットごとのミーティング時に社長も参加し、職員から意見・要望を聞いている。職員が話しやすい環境を整え、日頃から職員の意見を聞く機会を設け、ケア方法の見直しやイベントの企画など取り入れている。感染症のまん延防止策として、居室での食事支援について意見があり対応した。年2回、改めて社長との面談や、管理者とも年2回、個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回面談の機会を設け、年1回は評価面談も兼ねて実施しております。近況の業績が分かるようミーティング時に発信し施設の全体像が伝わるよう務めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて、毎月の研修の他外部講師の研修を取り入れ実践に活かせるようにしております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修開催の案内時は申し込むよう調整し参加しております。来年度は業務効率化を図り、参加の頻度を増やす予定です。	宮城県ケアマネジャー協会や丸森町病院主催の研修に参加し、他の事業所職員と情報交流を図っている。町主催のケア会議や病院主催の多職種連携の案内があり、職員体制を整え、オンラインでの参加など検討している。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に、情報を職員間で共有し、本人の様子を観察するようにし、不安な様子や困った様子が伺えた時には声掛けするように努めている。又その状況を職員間で共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始した際の今後の流れを症状に合わせてお伝えしております。特に認知機能障害の進行が進んでいる状態ですと次の段階に進むのが早まる可能性もありますのでご家族様と認識のズレが無いよう注意しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所しやすい環境づくりを行い、外出、外泊等に複雑な制限は設けておりません。入所してからも気軽に来れる施設でありたいと考えております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出だけではなく、行っていた趣味活動は継続できるよう対応しております。介護保険外であれば外出可能です。ご友人や知り合いの方の面会も対応しております。	友人や知人の面会がある。訪問理・美容を利用しているが、家族と一緒に馴染みの美容院に行く人もいる。携帯電話の利用や、手紙のやり取りを支援している。入居前から通う地域の体操教室に、引き続き参加している人もいる。ホームで用意した新聞購読を楽しむ人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす際は、スタッフが間に入り会話が弾むよう話題を提供しております。集団の取り組みとして、レクリエーションや体操を導入しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お亡くなりになった際には、職員にも知らせるようにしています。場合に応じて葬儀にも参列するようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望に添えるように努めています。帰りたいと話される時など電話で家族と会話していただくなどしています。また、面会などしていただき、今の家族の様子など話されています。	体操教室や編み物など、好きなことを継続できるように支援している。ホームで用意している新聞以外に、好きな新聞をコンビニに買いに行く人もいます。意思表示が難しい人からは、表情や仕草を見て把握に努めている。日常の会話から「カップラーメンが食べたい」との声があり、みんなで楽しく食べた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や、前いた施設の情報を得、今まで暮らしていた様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時、夜勤入り時に申し送りを行っております。また、対応の変更があった際は申し送りノートに記入し共有しており、必要時はミーティングで話し合いを実施しております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い3ヶ月に1回関係者と担当者会議を開催し話し合いを行っています。担当者会議の内容を介護計画に反映しております。	毎月のミーティングで利用者について話し合い、居室担当者が3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。担当者会議に担当職員、ケアマネジャー、管理者が参加し、本人・家族の意見や医師の受診結果をもとに、介護計画の内容について検討している。短期目標6ヶ月、長期目標12ヶ月、また状態が変化した時には都度、計画を見直している。家族には面会時や受診時、遠方の人は電話連絡で説明し、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングの申し送りや申し送りノート、ヒヤリハット、事故報告など職員間で共有し、介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により訪問マッサージ（現在は利用している方はいない）や床屋さんにホームまで来ていただき、散髪なども行っている。また、通院では、車椅子の方などは、近くの病院には送迎も行っている。急を要する受診には、職員が同行し受診をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域の展示会（縮矢間趣味の会）に皆さんで作った作品を出品している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は丸森病院と谷津歯科医院となっておりますが、かかりつけ医が違う場合は病院の変更は必要ありません。	入居前のかかりつけ医を引き続き受診できるが、協力医をかかりつけ医にしている人が多い。通院は家族付き添いが基本で、日常の状態を記入した予約票と1ヶ月のバイタル表を提供している。車いすの人は家族と病院で待ち合わせ、職員が送迎している。受診後は家族から受診結果を聞き情報共有している。看護師が勤務しており、週2回、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来た時には、利用者様の日々の状況を説明し、状況に応じてかかりつけ医と連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や家族との連絡を密にし、状態の把握に努め、良くなり次第早期に退院できるように努めています。入院時には、当ホームよりサマリーを退院時には、病院よりサマリーを頂き情報交換に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所に対応できる範囲を十分に説明し状態に合わせた提案を行っております。看取り対応は不可の為、早期提案が必須ですが、次の場所が決まらず看取りと同等の対応が求められる事もありますのでその際は密に連絡を取り対応しております。	入居時に重度化した時の対応について説明し、看取りは行っていない。重度化した時は家族と改めて、ホームでできることを説明している。移転先が決まるまでは病院と連携を図りながら対応している。状態が急変した際は、近くに住む職員も駆けつけてもらい救急車での対応などしている。年1回ターミナルケアの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の緊急時研修や消防署による救命救急の講習を実施しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非常災害時訓練と地域の防災訓練へ参加しております。昨年は運営推進会議にて避難訓練を実施し地域の方と意見交換を行っております。来年度は水害時の避難について意見交換予定です。	年2回避難訓練を実施し、内1回は運営推進会議のメンバーにも参加してもらい状況を把握してもらっている。また水害時の避難経路を毎回確認し、以前経験した水害を教訓に、みんなで避難できるよう大型車両を導入した。感染症対策として手指消毒、換気を徹底している。備蓄は5日分保管している。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の意思をしっかりと確認しペースを合わせた声掛けを実践しております。	呼び名は、基本名字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。年1回プライバシー保護の研修を行い、職員採用時にも研修している。排泄介助の時は周りに気づかれないように配慮し、取り組んでいる。各居室のトイレには消臭効果のある床材を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動においては必ず意思の確認を行います。特に集団で行動する際は、無理な声にならないよう配慮しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ一人一人が行動内容を把握し変化があれば漏れのないよう情報共有しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で行く方もおりますが、2ヶ月に一度訪問理美容が来所され、髪を整えていらっやいます。また、外出時（通院時含め）は季節や好みに合った服装を選び着て頂きます。入浴後の整容も欠かしません。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆、お彼岸、年始など職員がその時期に合った食事を提供しています。また、出来る方には、お盆拭きやお皿拭きなどのお手伝いをしていただいている。朝食は、夜勤者が、朝大変なことより冷凍食品を使うようにしています。	朝・夕食は業者の冷凍やチルド食品を利用し、ケアに関われるようにしている。昼食は各ユニットの職員がバランスを考慮しながら、行事食や旬の食材を取り入れたメニューを手作りし提供している。食材は宅配を利用したりスーパーに買い物に行っている。利用者はテーブルを拭いたり、おしぼりを畳んだり、後片付けを行うなど、できるところに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態を把握し、刻みやミキサー食にし食べやすいようにして提供しています。水分は水分制限のある方はその都度測りながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできるところはして頂き、様子を見ながらお手伝いをするようにしています。歯磨き後は、洗口液で口腔内を殺菌するようにしています。義歯は水洗い後洗浄剤を使用し、清潔に保つようにしています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を基にその人その人のパターンを把握し、出来るだけトイレの排出ができるように支援しています。意思表示の出来ない方はその人その人の表情や仕草からトイレに誘導しています。	各居室にトイレがあり、消臭効果のある床材が使われている。職員は記録された排泄チェック表でその日の状態やパターンを把握し、タイミングに合わせて声がけしている。夜間は、転倒防止のためセンサーマットを使用する人や、時間を見て声がけ誘導する人など、一人ひとりの状態に合わせて支援している。便秘対策として、ヨーグルトや牛乳を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に便秘しているかを把握し水分補給や乳製品を提供するようにしています。また、処方されている便秘薬を調整し、便秘の解消に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の設定はしていますが、随時本人の体調や希望に応じて対応しています。また、前もって今日入浴があることを伝え心の準備をしていただいています。拒否があるときには、翌日に延期しています。昨年機械浴導入により対応の幅が広がりました。	週3回の入浴を基本とし、一番風呂や同性介助の希望にも応じている。機械浴を導入したことで、利用者からは浴槽内に『安心して入れるようになった』と喜ばれ、職員の負担も軽減された。入浴拒否の人には、日時を変えたり、声かけを工夫して入浴できるよう努めている。入浴に繋がった事例や利用者の状態に合わせた入浴方法について、職員間で常に情報共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定時でお声がけし居室でお休みできるよう支援をしている他、疲れが見えた際は全体の時間調整を行い休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方して頂いた薬は薬情を基に薬の効能を理解するようにしています。薬をセットするときには、薬情を確認しながらセットするようにしています。服薬をする時には職員が本人の者であることを確認し服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状態や希望に合わせて、厨房でお盆拭きや皿拭きまた、洗濯物たたみなどをしていただいています。季節によってはお花見や紅葉ドライブなど外出し気分の転換を図っています。レクリエーションでは、昔懐かしい歌などを歌うようにしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、日光浴や散歩、時期によってお花見、紅葉ドライブなどを行なっています。また、受診の際、家族様と一緒に昼食を食べてきたりされています。家族様によっては、休みの時にドライブに連れていかれています。	季節に合わせ1～2週間前に計画を立て、ユニットごとにワゴン車で七ヶ宿ダムや柴田の花見などに出かけている。天気の良い日には、中庭で体操や日向ぼっこを楽しんでいる。ユニット合同で秋祭りや芋煮会を開催するなど、外気に触れる機会を作り交流を深めている。家族と外食や買い物に行く人もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、家族と相談しながら応じています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりその都度対応しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、その時期に合った壁飾りや作品を職員が月ごとに担当し、利用者様の協力をもって季節感のある作品を作り飾っています。	リビングは天井が高く南向きで明るく、畳敷きの小上がりがある。大画面のテレビが設置され季節の動画を見るなど利用者の楽しみになっており、日中はここで過ごす人が多い。季節の飾りは職員と利用者が一緒に手作りしている。加湿器と空気清浄機を設置し温・湿度を職員が管理している。リビングの掃除は利用者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはベンチ、談話室にはテーブルと椅子、畳コーナーにはテーブルを置きお茶や談話に使えるようにしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居際に使い慣れた食器や小物、写真やぬいぐるみ、毛布などを持参されています。また、入居後も状況に応じて季節ごとの衣類やタオルケットなど家族様と相談しながら対応しています。	洗面台・トイレ・ベッド・収納タンスが備え付けられており、マットレスなど布団一式もホームで用意している。利用者はテレビやラジオ・位牌・猫の写真など思い思いの物を持参している。室温は職員が管理し、毎朝掃除とリネン交換時に換気をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、ホールや廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全に十分配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492300017	事業の開始年月日	2011年4月12日		
		指 定 年 月 日	2011年4月10日		
法人名	株式会社岩沼インテリアサービス				
事業所名	認知症高齢者グループホームひまわりの郷 ユニット名：B棟				
所在地	(〒 981-2102) 宮城県伊具郡丸森町舘矢間舘山字直洲131-1				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名	
			ユニット数	2	
自己評価作成日	2025年2月16日	評 価 結 果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念である「異体同心」「地域密着」「利用者本位」を掲げ、ご利用者様、ご家族様のご希望に出来るだけ対応できるよう日々実践しております。正しいサービス提供となるよう、外部研修や外部講師を招いての研修も取り入れ情報共有を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2025年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

＜基本理念＞ 「利用者本位」「異体同心」「地域密着」

＜ユニット目標＞

◎A棟：「『こころ』と『からだ』の健康で笑顔と真心の介護」

◎B棟：「敬う心で、明るく笑顔 優しい介護」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

母体法人「株式会社岩沼インテリアサービス」は、リフォームなどを主な事業としており、地域貢献として2011年にグループホームを丸森町に開所した。ホームは角田市との境に近く、国道113号線から少し東に入った住宅と田園が混在する場所に建つ静かな環境である。スーパーやコンビニなども近い。建物は広い敷地に独立した平屋建てで、2ユニットが向かい合わせで建てられており、ユニット間の広場は合同で行うイベント会場としても使われる。各居室にはテラスが設けられ、より独立性が感じられる。リビングには大きな木の梁があり、畳の小上がりがあるなど、和風の佇まいである。

【事業所の優れている点・工夫点】

①理念に添ってその人らしく過ごせるよう支援に努めている点

地域の体操教室への参加や買い物、新聞購読など、利用者がしたいことを継続できるように支援したり、季節の飾り物の作成や歌など、利用者が楽しんで参加できるように工夫するなど、職員は理念を念頭に利用者に寄り添いその人らしく過ごせるように努めている。ドライブや合同でのイベントなどで、外へ出る機会も設けるようにしている。

②地域との関係づくりに積極的である点

地域の「班」（町内会）に加入し、地域の避難訓練にも参加したり、友人が面会に来るなど、地域とは馴染みの関係ができています。コロナ禍で地域住民との交流の機会が減ってしまったが、職員はまた交流を再開し、利用者の楽しみも増やしたいと考えています。

③働きやすい職場づくりに努めている点

毎月のミーティング時の他に、社長が直接職員と話し合う機会を設けるなど、法人としても職員の意見を取り入れるように努めている。機械浴や大型車を導入し、利用者の楽しみや職員の働きやすさに繋がっている。

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	介護部門 認知症高齢者グループホームひまわりの郷
ユニット名	B棟

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名：認知症高齢者グループホームひまわりの郷）「ユニット名：B棟」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「異体同心」「地域密着」「利用者本位」という3つの理念と、A棟「心と体の健康で笑顔と真心の介護」B棟「敬う心で明るい笑顔、優しい介護」という各ユニットごとの目標を決めて実施しています。毎日の朝礼時に全員で読み上げています。	開所時に職員が話し合った理念をホールと事務室に掲示し、朝礼時に唱和している。理念を念頭に、ユニットごとに職員間で話し合い目標を作成し、毎年、振り返りを行っている。職員は笑顔で利用者に寄り添い、利用者の意向を実現できるように支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の「班」に入れていただいております、回覧板を通して、地域の情報を受けています。また、奉仕作業や避難訓練にも参加し交流に努めています。	地域の「班」に加入し、回覧板や広報紙で情報を得ている。地域の清掃活動に職員が参加している。地域の避難訓練には利用者も参加し、避難所の段差がある場所では近隣住民から手助けを借りるなど、連携が図られた。散歩の際には近隣の人と挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学時相談を受けた際は、利用の提案だけではなく、その方に合った必要なサービスを受けられるよう提案しております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況報告だけではなく、空室状況や外部活動状況等も報告し共有している。頂いた意見は当月のミーティングにて報告し話し合いを行っている。	運営推進会議には区長・民生委員・地域包括職員・家族代表・職員が参加し、年6回開催している。ホームの運営状況や利用者の様子、研修・行事などの報告をしている。参加者からは病院受診時の対応などについて意見があった。『地域の介護施設全般について知りたい』との意見があり、町役場に繋げた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、運営での困り事は都度相談するよう対応しております。	家族からの苦情対応や運営で困ったときなどに相談したり、事故報告なども行っている。生活保護の利用者については仙南保健福祉事務所と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を作成しており、職員全員に配布し、会議の時に読ませをし周知徹底を図っている。また3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を開催している。	身体拘束適正化委員会をケアマネジャーを中心に3ヶ月ごとに開催し、「身体拘束その他の行動制限防止に係る指針」についても読み合わせている。研修は担当の職員が講師になり年2回開催している。外出したい利用者には職員と一緒に同行したり、家族に伝え一緒に買い物やドライブに行くなど気分転換をしている。防犯上、玄関は夜間のみ施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待防止委員会開催と年2回の虐待防止に関する研修を実施し、日々の業務に活かしています。また、実践で不安がある際は都度スタッフ同志声を掛け合い確認を行っています。	年2回、虐待防止委員会を開催し、職員は「虐待の芽チェックリスト」で自らのケアを振り返っている。また「適切ケアチェックリスト」を職員に配布し、職員の気づきに繋がっている。管理者は日頃から職員の話しを聞いたり相談に乗るなど、ストレスの軽減に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の研修を資料作成からスタッフに行ってい頂き、理解を深めています。実践では		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、内容を十分に説明し、疑問点にも丁寧にお答えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時折面会に来られた時や、何か用事があり電話連絡した時など意見や要望があれば聞き運営に反映されるように努めている。	感染症予防に取り組みながら、面会の制限をなくし、居室での面会を可能にした。毎月、利用者の写真入りの「ひまわりの郷通信」を家族に送付し、日常の様子が分かるとの声がある。面会時や受診時に家族から聞いたことなどは伝達漏れがないよう「申し送りノート」やタブレットに記入し、朝夕の引継ぎで確認し情報共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中で話をする機会を設け疑問点は、スタッフに投げかけるよう対応しております。ミーティング時には全体に意見を聞き必要時は修正しております。	ユニットごとのミーティング時に社長も参加し、職員から意見・要望を聞いている。職員が話しやすい環境を整え、日頃から職員の意見を聞く機会を設け、ケア方法の見直しやイベントの企画など取り入れている。感染症のまん延防止策として、居室での食事支援について意見があり対応した。年2回、改めて社長との面談や、管理者とも年2回、個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回面談の機会を設け、年1回は評価面談も兼ねて実施しております。近況の業績が分かるようミーティング時に発信し施設の全体像が伝わるよう務めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内にて、毎月の研修の他外部講師の研修を取り入れ実践に活かせるようにしております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修開催の案内時は申し込むよう調整し参加しております。来年度は業務効率化を図り、参加の頻度を増やす予定です。	宮城県ケアマネジャー協会や丸森町病院主催の研修に参加し、他の事業所職員と情報交流を図っている。町主催のケア会議や病院主催の多職種連携の案内があり、職員体制を整え、オンラインでの参加など検討している。	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用を開始する前に、情報を職員間で共有し、本人の様子を観察するようにし、不安な様子や困った様子が伺えた時には声掛けするように努めている。又その状況を職員間で共有するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との話し合いを十分に持ち、信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始した際の今後の流れを症状に合わせてお伝えしております。特に認知機能障害の進行が進んでいる状態ですと次の段階に進むのが早まる可能性もありますのでご家族様と認識のズレが無いよう注意しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然体で接しながら、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所しやすい環境づくりを行い、外出、外泊等に複雑な制限は設けておりません。入所してからも気軽に来れる施設でありたいと考えております。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出だけではなく、行っていた趣味活動は継続できるよう対応しております。介護保険外であれば外出可能です。ご友人や知り合いの方の面会も対応しております。	友人や知人の面会がある。訪問理・美容を利用しているが、家族と一緒に馴染みの美容院に行く人もいる。携帯電話の利用や、手紙のやり取りを支援している。入居前から通う地域の体操教室に、引き続き参加している人もいる。ホームで用意した新聞購読を楽しむ人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす際は、スタッフが間に入り会話が弾むよう話題を提供しております。集団の取り組みとして、レクリエーションや体操を導入しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お亡くなりになった際には、職員にも知らせるようにしています。場合に応じて葬儀にも参列するようにしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望に添えるように努めています。帰りたいと話される時など電話で家族と会話していただくなどしています。また、面会などしていただき、今の家族の様子など話されています。	体操教室や編み物など、好きなことを継続できるように支援している。ホームで用意している新聞以外に、好きな新聞をコンビニに買いに行く人もいます。意思表示が難しい人からは、表情や仕草を見て把握に努めている。日常の会話から「カップラーメンが食べたい」との声があり、みんなで楽しく食べた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や、前いた施設の情報を得、今まで暮らしていた様子の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時、夜勤入り時に申し送りを行っております。また、対応の変更があった際は申し送りノートに記入し共有しており、必要時はミーティングで話し合いを実施しております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い3ヶ月に1回関係者と担当者会議を開催し話し合いを行っています。担当者会議の内容を介護計画に反映しております。	毎月のミーティングで利用者について話し合い、居室担当者が3ヶ月ごとにモニタリングを行っている。担当者会議に担当職員、ケアマネジャー、管理者が参加し、本人・家族の意見や医師の受診結果をもとに、介護計画の内容について検討している。短期目標6ヶ月、長期目標12ヶ月、また状態が変化した時には都度、計画を見直している。家族には面会時や受診時、遠方の人は電話連絡で説明し、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングの申し送りや申し送りノート、ヒヤリハット、事故報告など職員間で共有し、介護計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望により訪問マッサージ（現在は利用している方はいない）や床屋さんにもホームまで来ていただき、散髪なども行っている。また、通院では、車椅子の方などは、近くの病院には送迎も行っている。急を要する受診には、職員が同行し受診をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年恒例の地域の展示会（館矢間趣味の会）に皆さんで作った作品を出品している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は丸森病院と谷津歯科医院となっておりますが、かかりつけ医が違う場合は病院の変更は必要ありません。	入居前のかかりつけ医を引き続き受診できるが、協力医をかかりつけ医にしている人が多い。通院は家族付き添いが基本で、日常の状態を記入した予約票と1ヶ月のバイタル表を提供している。車いすの人は家族と病院で待ち合わせ、職員が送迎している。受診後は家族から受診結果を聞き情報共有している。看護師が勤務しており、週2回、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来た時には、利用者様の日々の状況を説明し、状況に応じてかかりつけ医と連携を図っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関や家族との連絡を密にし、状態の把握に努め、良くなり次第早期に退院できるように努めています。入院時には、当ホームよりサマリーを退院時には、病院よりサマリーを頂き情報交換に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で対応できる範囲を十分に説明し状態に合わせた提案を行っております。看取り対応は不可の為、早期提案が必須ですが、次の場所が決まらず看取りと同等の対応が求められる事もありますのでその際は密に連絡を取り対応しております。	入居時に重度化した時の対応について説明し、看取りは行っていない。重度化した時は家族と改めて、ホームでできることを説明している。移転先が決まるまでは病院と連携を図りながら対応している。状態が急変した際は、近くに住む職員も駆けつけてもらい救急車での対応などしている。年1回ターミナルケアの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回の緊急時研修や消防署による救命救急の講習を実施しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非常災害時訓練と地域の防災訓練へ参加しております。昨年は運営推進会議にて避難訓練を実施し地域の方と意見交換を行っております。来年度は水害時の避難について意見交換予定です。	年2回避難訓練を実施し、内1回は運営推進会議のメンバーにも参加してもらい状況を把握してもらっている。また水害時の避難経路を毎回確認し、以前経験した水害を教訓に、みんなで避難できるよう大型車両を導入した。感染症対策として手指消毒、換気を徹底している。備蓄は5日分保管している。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様の意思をしっかりと確認しペースを合わせた声掛けを実践しております。	呼び名は、基本名字や名前に「さん」を付けて呼んでいる。年1回プライバシー保護の研修を行い、職員採用時にも研修している。排泄介助の時は周りに気づかれないように配慮し、取り組んでいる。各居室のトイレには消臭効果のある床材を使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の行動においては必ず意思の確認を行います。特に集団で行動する際は、無理な声にならないよう配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ一人一人が行動内容を把握し変化があれば漏れのないよう情報共有しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人で行く方もおりますが、2ヶ月に一度訪問理美容が来所され、髪を整えていらっしゃいます。また、外出時（通院時含め）は季節や好みに合った服装を選び着て頂きます。入浴後の整容も欠かしません。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆、お彼岸、年始など職員がその時期に合った食事を提供しています。また、出来る方には、お盆拭きやお皿拭きなどのお手伝いをしていただいている。朝食は、夜勤者が、朝大変なことより冷凍食品を使うようにしています。	朝・夕食は業者の冷凍やチルド食品を利用し、ケアに関われるようにしている。昼食は各ユニットの職員がバランスを考慮しながら、行事食や旬の食材を取り入れたメニューを手作りし提供している。食材は宅配を利用したりスーパーに買い物に行っている。利用者はテーブルを拭いたり、おしぼりを畳んだり、後片付けを行うなど、できるところに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や嚥下状態を把握し、刻みやミキサー食にし食べやすいようにして提供しています。水分は水分制限のある方はその都度測りながら提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできるところはして頂き、様子を見ながらお手伝いをするようにしています。歯磨き後は、洗口液で口腔内を殺菌するようにしています。義歯は水洗い後洗浄剤を使用し、清潔に保つようにしています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を基にその人その人のパターンを把握し、出来るだけトイレの排出ができるように支援しています。意思表示の出来ない方はその人その人の表情や仕草からトイレに誘導しています。	各居室にトイレがあり、消臭効果のある床材が使われている。職員は記録された排泄チェック表でその日の状態やパターンを把握し、タイミングに合わせて声がけしている。夜間は、転倒防止のためセンサーマットを使用する人や、時間を見て声がけ誘導する人など、一人ひとりの状態に合わせて支援している。便秘対策として、ヨーグルトや牛乳を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を基に便秘しているかを把握し水分補給や乳製品を提供するようにしています。また、処方されている便秘薬を調整し、便秘の解消に努めています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日の設定はしていますが、随時本人の体調や希望に応じて対応しています。また、前もって今日入浴があることを伝え心の準備をしていただいています。拒否があるときには、翌日に延期しています。昨年機械浴導入により対応の幅が広がりました。	週3回の入浴を基本とし、一番風呂や同性介助の希望にも応じている。機械浴を導入したことで、利用者からは浴槽内に『安心して入れるようになった』と喜ばれ、職員の負担も軽減された。入浴拒否の人には、日時を変えたり、声かけを工夫して入浴できるよう努めている。入浴に繋がった事例や利用者の状態に合わせた入浴方法について、職員間で常に情報共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定時でお声がけし居室でお休みできるよう支援をしている他、疲れが見えた際は全体の時間調整を行い休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方して頂いた薬は薬情を基に薬の効能を理解するようにしています。薬をセットするときには、薬情を確認しながらセットするようにしています。服薬をする時には職員が本人の者であることを確認し服薬していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの心身状態や希望に合わせて、厨房でお盆拭きや皿拭きまた、洗濯物たたみなどをしていただいています。季節によってはお花見や紅葉ドライブなど外出し気分の転換を図っています。レクリエーションでは、昔懐かしい歌などを歌うようにしています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を踏まえ、日光浴や散歩、時期によってお花見、紅葉ドライブなどを行なっています。また、受診の際、家族様と一緒に昼食を食べてきたりされています。家族様によっては、休みの時にドライブに連れていかれています。	季節に合わせ1～2週間前に計画を立て、ユニットごとにワゴン車で七ヶ宿ダムや柴田の花見などに出かけている。天気の良い日には、中庭で体操や日向ぼっこを楽しんでいる。ユニット合同で秋祭りや芋煮会を開催するなど、外気に触れる機会を作り交流を深めている。家族と外食や買い物に行く人もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、家族と相談しながら応じています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりその都度対応しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、その時期に合った壁飾りや作品を職員が月ごとに担当し、利用者様の協力をもって季節感のある作品を作り飾っています。	リビングは天井が高く南向きで明るく、畳敷きの小上がりがある。大画面のテレビが設置され季節の動画を見るなど利用者の楽しみになっており、日中はここで過ごす人が多い。季節の飾りは職員と利用者が一緒に手作りしている。加湿器と空気清浄機を設置し温・湿度を職員が管理している。リビングの掃除は利用者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはベンチ、談話室にはテーブルと椅子、畳コーナーにはテーブルを置きお茶や談話に使えるようにしています。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居際に使い慣れた食器や小物、写真やぬいぐるみ、毛布などを持参されています。また、入居後も状況に応じて季節ごとの衣類やタオルケットなど家族様と相談しながら対応しています。	洗面台・トイレ・ベッド・収納タンスが備え付けられており、マットレスなど布団一式もホームで用意している。利用者はテレビやラジオ・位牌・猫の写真など思い思いの物を持参している。室温は職員が管理し、毎朝掃除とリネン交換時に換気をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーになっており、ホールや廊下には両サイドに手すりが設置されているが、職員それぞれが安全に十分配慮しています。		